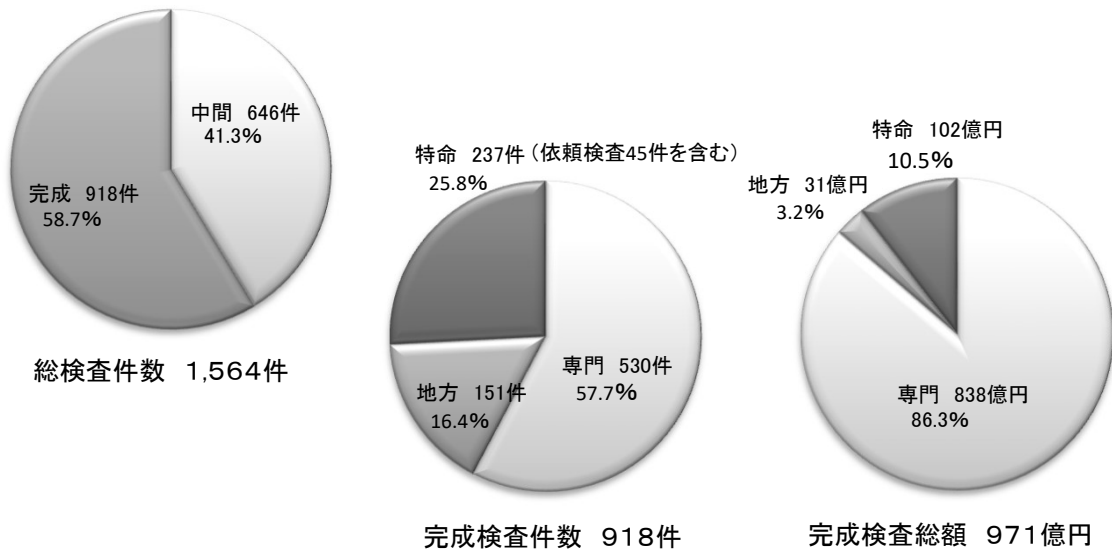


令和6年度工事検査実績

令和6年度の工事検査実績をとりまとめた結果は次のとおり。
データ集計期間は、令和6年4月1日から令和7年3月31日まで。

I 実績／全体

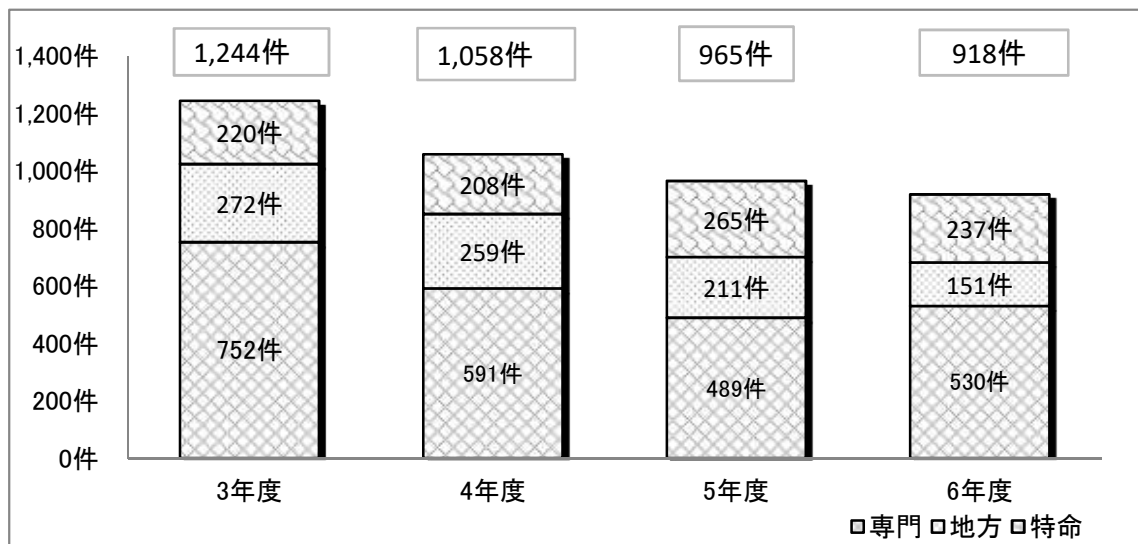
1) 検査件数／完成／中間



◇令和6年度の総検査件数（専門・地方・特命検査員検査合計）は、1,564件（R5は1,673件）だった。うち、完成検査は918件（58.7%）、中間検査は646件（41.8%）だった。

完成検査のうち専門検査員検査は530件（57.7%）、838億円（86.3%）だった。

2) 検査件数／完成／推移



◇令和6年度完成検査件数は、前年から専門検査員検査は増加したものの、地方検査員検査及び特命検査員検査で減少し、合計で47件減少した。

備考

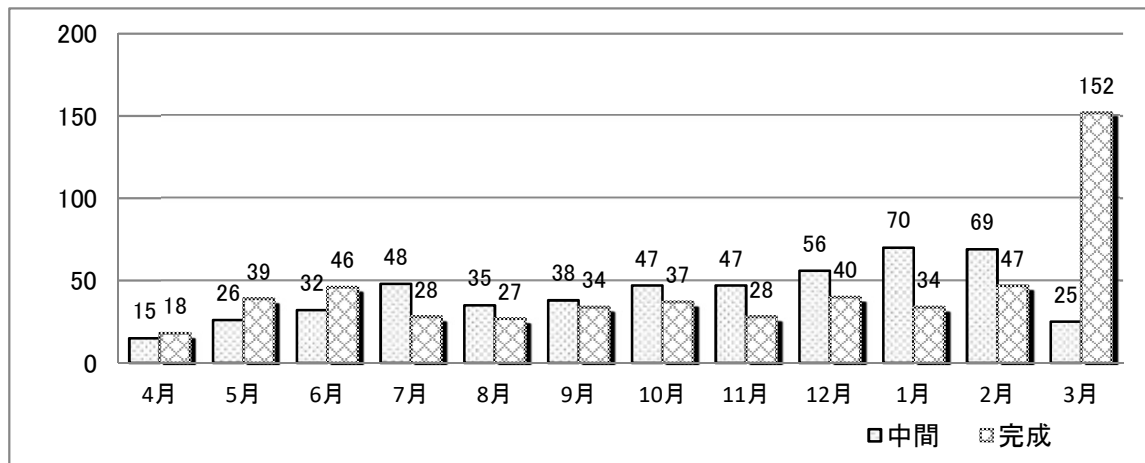
専門検査員は、検査課に所属し、主として契約額が4,000万円以上の発注工事を検査。

地方検査員は、県工事検査規程で定められた地方機関に配属され、契約額が4,000万円未満の発注工事を検査。

特命検査員は、主務課長又は所長に別に職員のうちから任命され、県工事検査執行要領の範囲内の工事を検査。

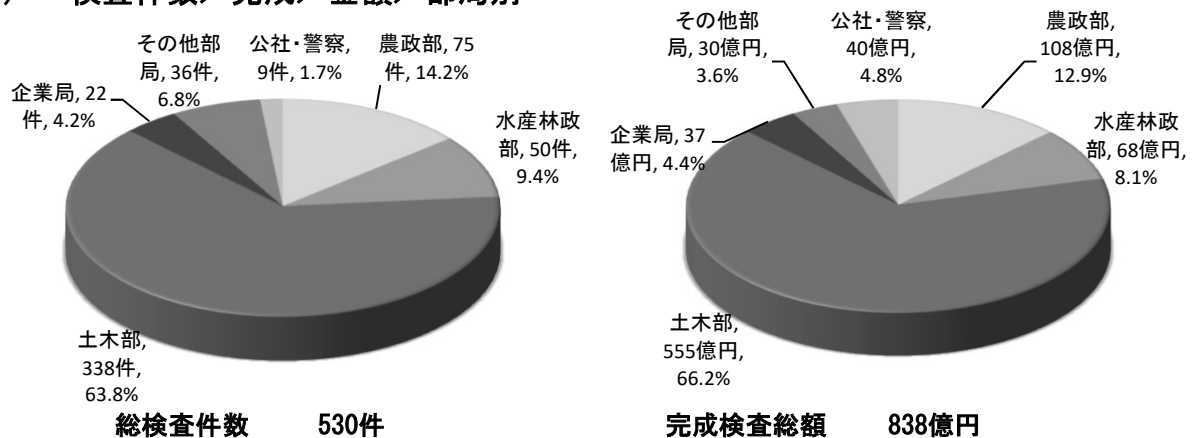
Ⅱ 実績／専門検査員

1) 検査件数／月別



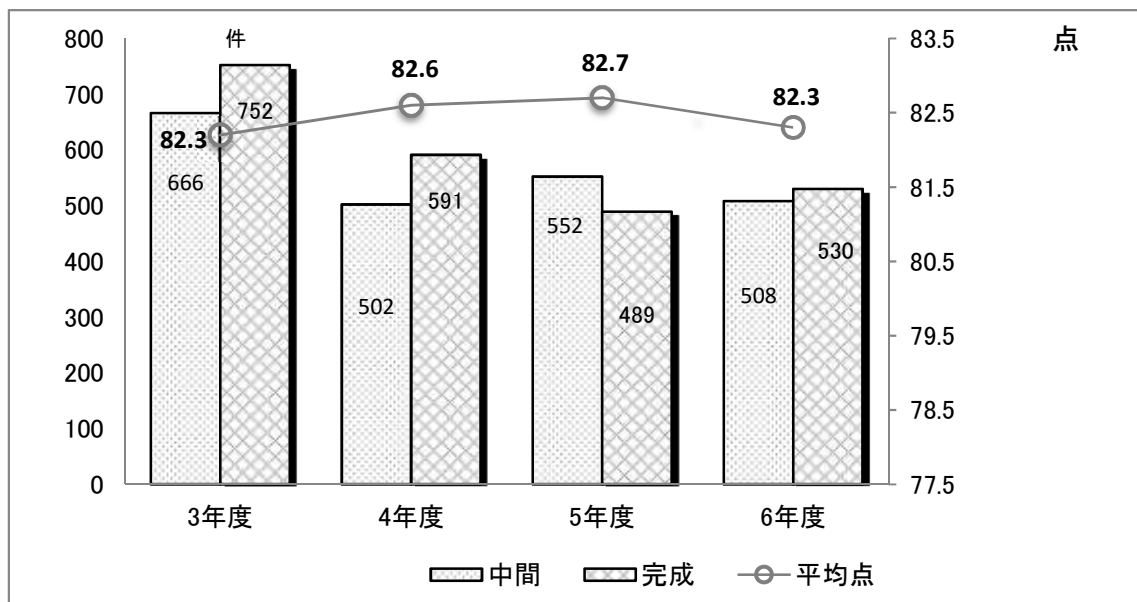
◇月ごとの専門検査員の完成検査件数は、4月(18件)が最も少なく、3月(152件)が最も多くなり突出した。
中間検査件数は、4月、5月、3月は10件～20件程度で推移し、それ以外の月は30件～70件程度で推移した。

2) 検査件数／完成／金額／部局別



◇専門検査員の完成検査件数は農政部、水産林政部と土木部の工事で87.3%(金額で92.6%)を占めた。

3) 検査件数／平均点／推移



◇専門検査員の完成検査件数は前年から41件の増、中間検査件数は44件の減となった。

◇工事成績の平均点(審査を行った529件の平均)は、前年から0.4点低くなった。

Ⅲ 中間検査の実施と工事成績／専門検査員

1) 検査件数／平均点／中間検査実施率

◇完成検査は考査を行った工事を対象とする

		件数	合計点	平均点	中間検査実施率	備考
R5	検査全体	1,034				
	■ 中間検査	552			114.5% ※1	
	■ 完成検査	482	39,862	82.7	82.8% ※2	
	中間検査無	83	6,676	80.4		17.2%
	中間検査有	399	33,186	83.2		82.8%
	□ 低入札工事	23	1,886	82.0	73.9% ※2	
	中間検査無	6	480	80.0		26.1%
	中間検査有	17	1,406	82.7		73.9%
	□ 非低入札工事	459	37,976	82.7	83.2% ※2	
	中間検査無	77	6,196	80.5		16.8%
	中間検査有	382	31,780	83.2		83.2%
R6	検査全体	1,037				
	■ 中間検査	508			96.0% ※1	
	■ 完成検査	529	43,518	82.3	81.5% ※2, 3	
	中間検査無	98	7,833	79.9		18.5%
	中間検査有	431	35,685	82.8		81.5%
	□ 低入札工事	39	3,191	81.8	89.7% ※2	
	中間検査無	4	322	80.5		10.3%
	中間検査有	35	2,869	82.0		89.7%
	□ 非低入札工事	490	40,327	82.3	80.8% ※2	
	中間検査無	94	7,511	79.9		19.2%
	中間検査有	396	32,816	82.9		80.8%
前年比		R6／R5		平均点の差（点）	中間検査実施率の差	
	検査全体	100.3%				
	■ 中間検査	92.0%			-18.5pt	
	■ 完成検査	109.8%		-0.4	-1.3pt	
	中間検査無	118.1%		-0.5		
	中間検査有	108.0%		-0.4		
	□ 低入札工事	169.6%		-0.2	15.8pt	
	中間検査無	66.7%		0.5		
	中間検査有	205.9%		-0.7		
	□ 非低入札工事	106.8%		-0.4	-2.4pt	
	中間検査無	122.1%		-0.6		
	中間検査有	103.7%		-0.3		

※1 見掛中間検査実施率:完成検査件数と中間検査件数の単純比率

※2 実質中間検査実施率:完成検査件数とそのうちの中間検査受検済みの完成検査件数の比率

※3 完成検査530件のうち、500万円未満の考査なし工事が1件あるため529件で算出

※ 備考欄の「%」は中間検査”無”と中間検査”有”の割合を示す

◇令和6年度の専門検査員による検査件数は1,038件で、前年度比99.7%(3件の減)だった。

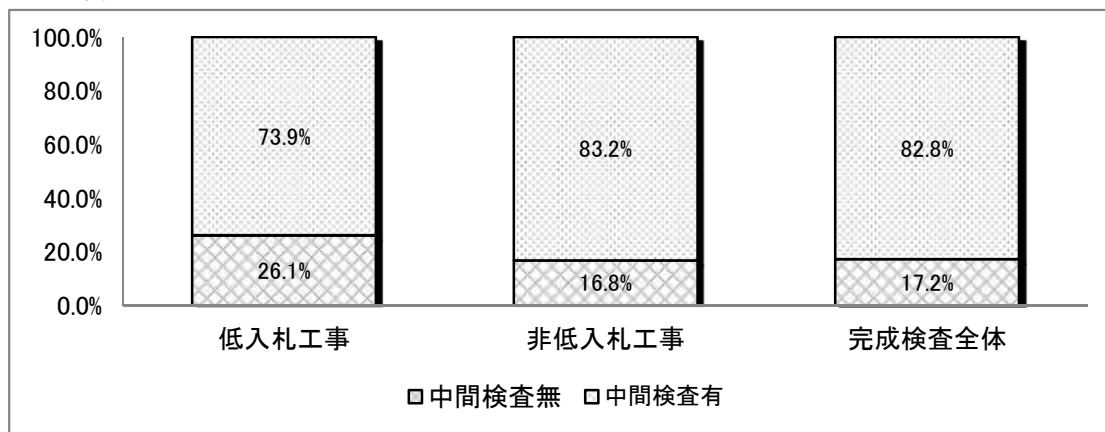
◇そのうち、中間検査は508件(前年度比92.0%)、完成検査は530件(前年度比108.4%)だった。

◇成績考査対象の完成検査529件のうち、中間検査を1回以上受検した工事の割合は81.5%だった。

◇中間検査実施状況で平均点を比較すると、中間検査実施工事が82.8点、中間検査未実施工事が79.9点と、平均点に2.9点の差があった。

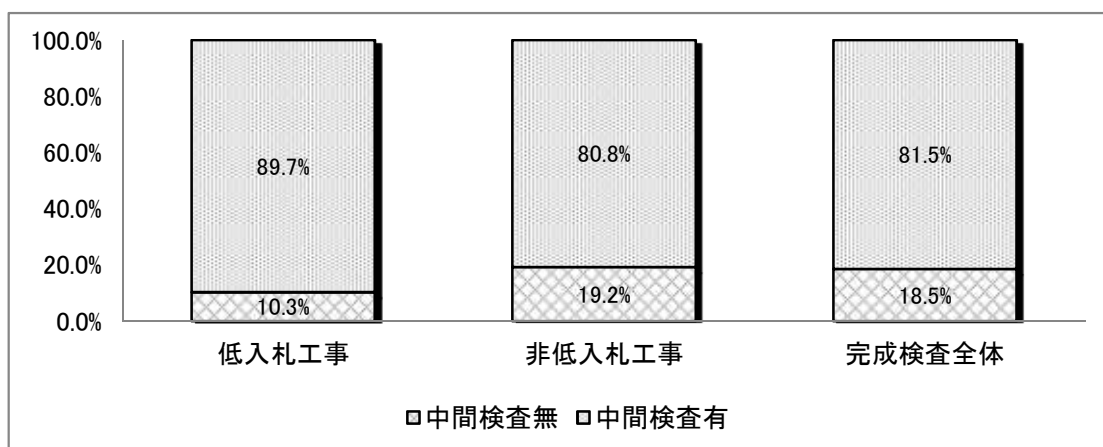
〔中間検査実施率の比較〕

R5年度



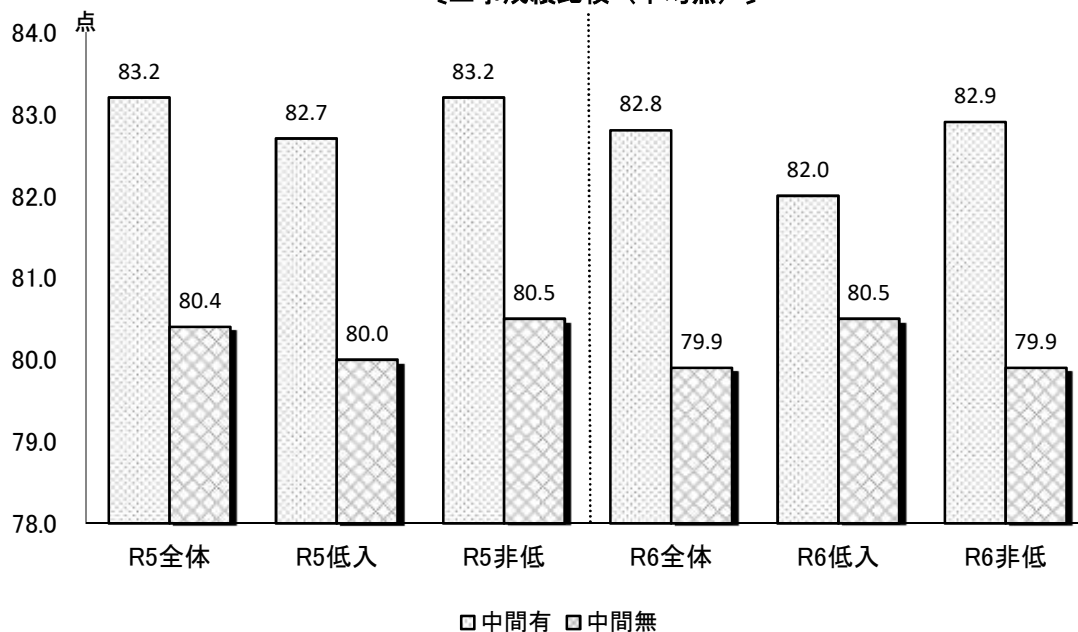
◇令和5年度に実施した完成検査において中間検査を一回以上受検した工事は82.8%、うち低入札工事では73.9%、非低入札工事では83.2%だった。

R6年度



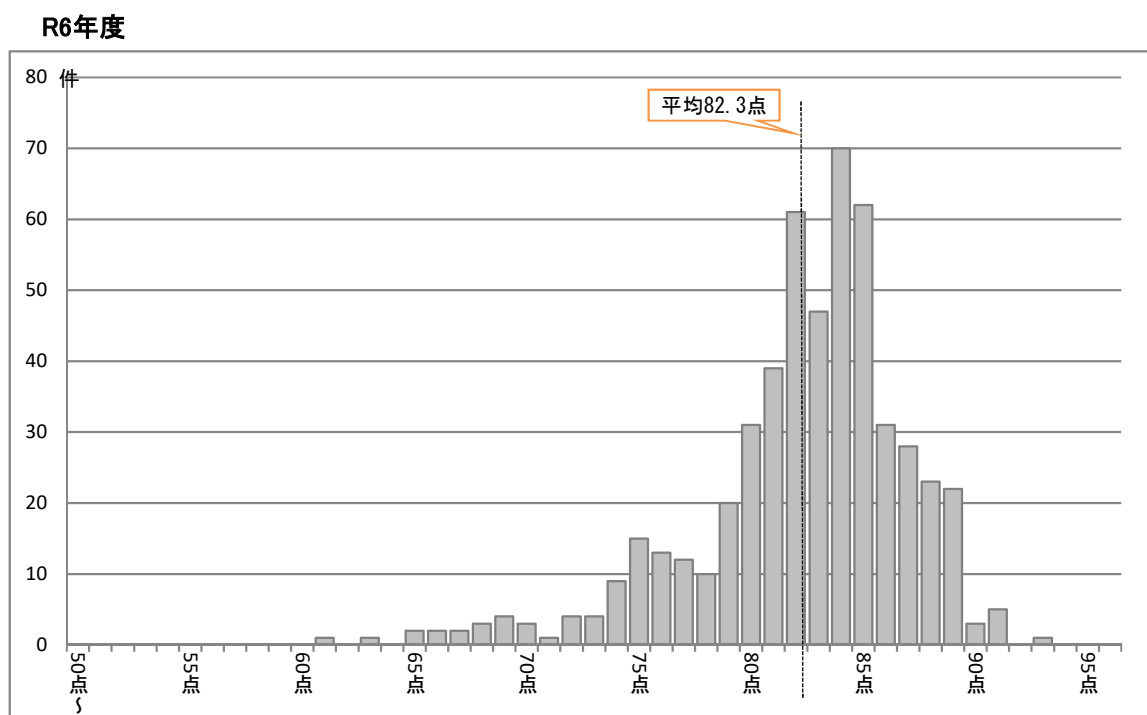
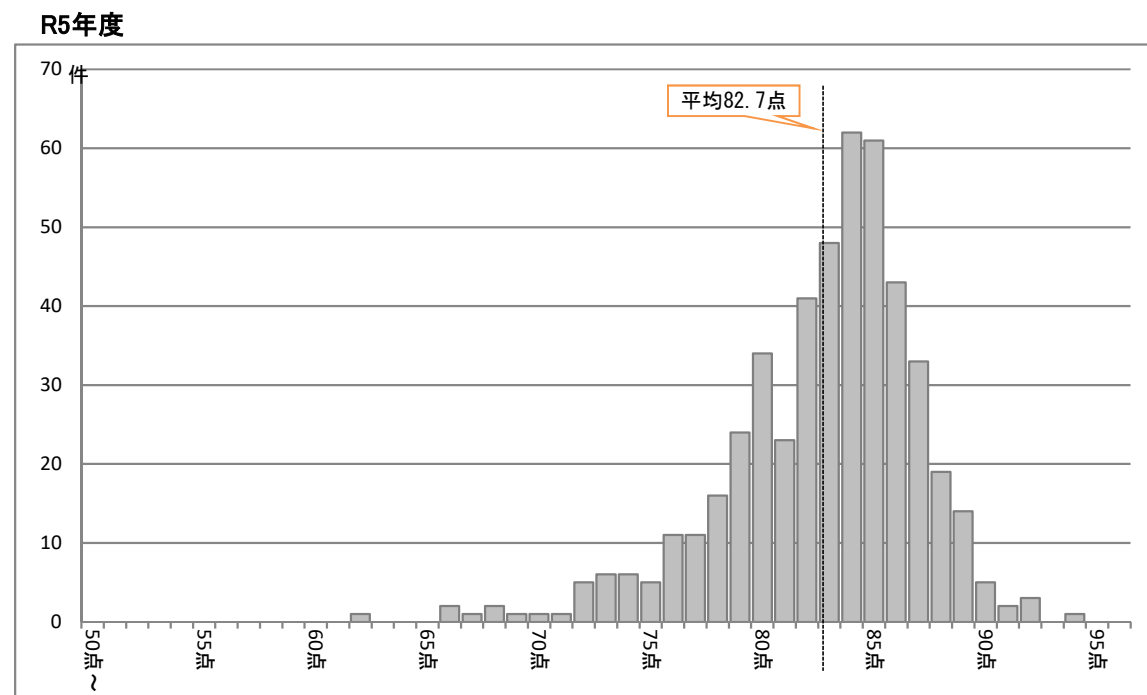
◇令和6年度に実施した完成検査において中間検査を一回以上受検した工事は81.5%と、前年度と同程度の実施率であった。

〔工事成績比較（平均点）〕



2) 工事成績分布

〔工事成績の分布〕



◇令和6年度における工事成績平均点は82.3点、最頻値は84点だった。前年度と同様に高得点側に傾く傾向があった。

IV 令和6年度検査結果と主な指導事項

1) 令和6年度検査結果と令和7年度目標

【検査結果】

- 令和6年度の検査件数は、1,564件と前年度に比べ109件(6.5%)減少した。また完成検査については918件と前年度に比べ47件(4.9%)減少したが、総検査件数に占める完成検査の割合は高くなった。
- 専門検査員による完成検査の工事成績の平均点は82.3点と前年度(82.7点)に比べ0.4点低くなった。
- 中間検査実施率は81.5%となり、前年度に比べ0.8ポイント減少した。工事成績を中間検査の有無で分けると、2.9点の格差が見られる。

【令和7年度目標】

- 工事検査について、確実な契約の履行確保に向け、計画的・効率的に実施するとともに、中間検査の実施促進による工事施工段階での確認や受検者への効果的な指導を行うことにより、工事目的物の品質の確保・向上に努める。
- 公平かつ客観的に工事検査を実施するとともに、工事成績考査結果の上位者公表や他の模範となる優良工事を選定し施工業者を表彰することにより、県内企業の技術力向上への意欲を高める。

2) 検査時における主な指導事項

- ICT活用工事における施工計画書は、国のガイドラインに基づき現場条件を反映した内容で作成すること。
- ICT活用工事における契約後の「具体的な内容の協議」について適切に実施すること。
- 施工計画書における過積載防止に係る現場管理について、事前に監督職員と協議の上決めておくことが望ましい。
- 施工計画書における施工方法について、資材置き場や建設機械の作業範囲などを明示した平面図を作成すること。
- 施工計画書、施工体制台帳、施工体系図等の提出図書と、現場の施工方法、施工体制が不一致の場合があるため一致させること。
- 機器の製作や材料等の選定に際して、事前に耐震計算、各種荷重計算、揚程計算等について検討書を打合簿で監督職員へ提出し、承諾後に製作に着手、材料の発注を行うこと。